

式 辞

皆さん、ご入学おめでとうございます。本日は、日本大学大学院商学研究科 博士前期課程に20名、後期課程に1名、商学部に1,378名の皆さんが、見事難関を突破して全国からこの日本大学商学部に集ってきました。

一週間後の8日は武道館で入学式を迎えます。

日本大学全体では約18,000人が入学し、武道館では、日本大学の規模の大きさをあらためて感じると思います。

皆さんのご家族の方々も 今日をお迎えになって、どれだけお喜びかと思います。

本日は、誠におめでたい日です。

皆さんは、中学生、高校生の時は「生徒」と呼ばれていましたが、今日からは学生になり「大学生」と呼ばれます。

大いに学び、全力で生きていく。「大学生」、いい響きですね。

今日から皆さんは、人生で最も輝いている青春という季節をこの商学部のキャンパスで4年間過ごすわけです。これから毎日、わが商学部のシンボルである噴水「勇気の泉」が君たちを出迎えます。

このキャンパスには、皆さんの将来のために、未来のために準備をする快適なスペースが用意されています。

例えば、パソコンが104台設置された一号館のサイバースペース・コスモスであったり、図書館であったりします。サイバースペース・コスモスは、未来を思わせるデザイン性の非常に高い空間で快適な自習タイムを過ごすこともできれば、グループで利用できる空間も用意されています。

図書館の3階はアクティブラーニングと呼ばれる躍動感あふれるスペースにはパソコンが50台設置され、2階は個人のスペースとミーティングスペース、DVD鑑賞スペースなど時代の最先端の要請に応えた空間になっています。

また、図書館内での貸し出し用ノートパソコンが約100台用意されています。

さらに、この4月から、先生方の在籍が分かるディスプレイを本館教務課前、一号館サイバースペース・コスモス、講師室に設置しておりますので、先生方の研究室を訪れる際にご活用ください。

これまでの高校生活から想像することができない充実した環境を大いに活用してキャン

パスライフを満喫していただきたいと思います。

商学部では、学生の皆さんの成長を見守り伸ばすことにも力を入れています。

商学部には資格取得奨励金制度があります。これは、公認会計士短答式試験、税理士試験、ファイナンシャルプランナー試験で資格等を取得したり、TOEIC、トーフルなどの一定の得点を取得した学生に対してそのレベルに合わせて奨励金を給付するというものです。この奨励金は、商学部が独自に用意をしているものです。日本大学の他の学部ではこうした制度はありません。

平成24年度から平成27年度の4年間で公認会計士短答式試験、税理士試験の簿記論、財務諸表論で合わせて38名の合格者を出しています。

また、グローバル時代には英語力が必要と盛んに言われていますがTOEICでは650点以上128名、750点以上77名、そして850点以上が25名、4年間で230名の学生が奨励金を受けました。最初は、低いスコアだった先輩たちが努力をしてスコアを上げているのです。

皆さんも先輩の後に続いていただきたいと思います。

奨励金は、平成25年度186名に対して950万円、平成26年度222名に対して1,050万円、平成27年度251名に対して1,230万円と給付者数、給付額が増えていますが、これはすべて皆さんの先輩たちの努力の結果です。

また、商学部では、海外への留学制度にも力を入れております。

少しご紹介しますが、春にオーストラリアのモナッシュ大学での5週間の英語研修プログラムがあります。

長期の留学では、アメリカのミシガン州にあるウェスタンミシガン大学への年間留学プログラムを実施しています。

このプログラムは、8月から翌年の5月まで留学するプログラムです。

また、商学部の海外協定校であるフランスのオデンシア大学には、春に実施する短期の留学プログラムと1年間の交換留学プログラムがあります。

こうしたプログラムを通じて、これから社会で必要な英語力を伸ばし、就職にも活かしている先輩が数多くおります。

さらに、皆さんの先輩には、文部科学省の国費留学生として採用され今年4月1日からパリに一年間留学している先輩がいます。これは、文部科学省が世界で活躍できる意欲と能力のある若者に留学のチャンスを与えるプログラムで「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム海外留学支援制度」を通じてオールジャパンとして人材を育てるものです。こ

の頼もしい先輩は桐本君といいます。

桐本君はこの留学支援プログラムの多様性人材コースに「パリで日本工芸を世界に通用するブランドへ。モノ造りの革新によって日本の地方に活力を。」をテーマとして応募して申請576名、183校に対して採用102名、67校の難関を見事に突破して採用されました。この67校の中には東大、京大、一橋、早稲田、慶応、上智、同志社、立命館の名前が連なっています。

さらに桐本君は、文部科学省で行われたはせ文部科学大臣も出席された壮行会で採用された102名の代表として立派なスピーチをしました。

そうです、102名のトップだったのです。

今日から一年間日本の大学生の代表としてまた、日本大学の代表として、小さな大使としてパリで新しい生活を送る桐本君の活躍を心から期待しています。

さて、商学部は1年生に対してクラス担任制度を行っています。

小学校から高校まではクラスというと30～40名程度の規模でしたが、商学部では約17名です。

この制度の基本には、学生と先生方との距離を可能な限り少なくして学生とのコンタクトを多くするということが目的です。

そうです、何か学業上の不安、心配事があったらぜひ担任の先生に相談してください。きっと皆さんにとって有意義なことを伝えていただけたと思います。

また、少人数制で先生を囲んで専門的なことを学ぶゼミナールがあります。

どうか、積極的にゼミナールに挑戦してください。

高校までは、先生に相談するお話しするときは、職員室に行ったと思います。たくさんの先生方が大部屋にいてそこに訪ねていくわけですね。

大学では、先生一人一人が日本大学の中でも広いといわれる研究室をお持ちです。

クラス担任の先生の研究室、そしてゼミナールに所属したらゼミの先生の研究室に機会がありましたら是非、足を運んでください。

研究室に入ると研究関係の蔵書や資料が並んだ部屋をみてこれが大学の研究室なんだ、すごいなと思い、自分自身が大学生なんだということを強く感じ、少し賢くなった感じがすると思います。

私がそうでした。初めてゼミの先生の研究室で先生とお話をしたことを帰宅して興奮気味に家族に話して、家族も喜んでくれたことが、昨日のように思い出されます。

私は、今日から4年後ここにいる全ての皆さんが、就職を決めて胸を張り卒業して社会に飛び立つことを願っています。

商学部では、昨年は4年生の76%の学生が卒業しました。ということは残念ながら24%の学生が留年しました。

ここにいる1/4、その列、全員留年だったということですね。

今年は81%の学生が卒業し19%の学生が留年しました。

大学生活は、これまでと違い自由度が非常に高いと言えます。どうか、未来を将来を見据えてしっかり勉学に励んでいただきたいと思います。また、しっかりと単位を取得してください。しっかり単位を取り前を向いていろいろなことに挑戦してください。

しっかり4年間このキャンパスに来て、授業に出席してわからないことがあれば先生方に質問、相談をしてください。全ての先生方は皆さんの成長を望み、皆さんに期待していますので全力で応えてくれると思います。

また、教務課、学生課、就職指導課をはじめとする事務局も全力を持って皆さんを支援いたします。

どうか窓口に来て相談、質問を遠慮なくしてください。

最後になりましたが、スマート・キャンパスで心豊かな学生生活を過ごされることを心より期待しています。これからの道を決めるのは、君たちだから！
そして自立した社会人として飛び立ってください。

以上をもちまして、私の式辞を終わらせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

平成28年4月1日

日本大学商学部事務局長

服部史郎